

幕末維新の人物と写真①

①木戸孝允 明治2（1869）年4月22日

「ほっとやまはく」

タイム²³



写真館で撮影されたものです。明治になって間もない頃で、洋服ではなく、江戸時代と同じ服装をしています。以下の写真はすべて、木戸家からの寄贈品です。

19世紀半ば、ヨーロッパで発明された写真技術が日本に伝来し、人物や風景を画像としてありのままに記録することが可能になりました。これにより、それまで肖像画な

どでしか知り得なかった日本史上の人物の、リアルな容姿を見ることができるようになりました。本連載の歴史コーナーでは、県立山口博物館の所蔵する幕末の志士たちの写真をシリーズで紹介



②木戸孝允 明治5（1872）年閏2月8日



③木戸孝允 明治5（1872）年、MAULL & CO. 撮影

写真④慶応2（1866）年12月29日、長州藩主毛利敬親（たかちか）と世子元徳（もとりのり）は、英国海軍キング提督と三田尻（防府市）で会見しました。キング提督から会見の打診を受けた木戸孝允が、英国との結び付きを図る好機として、会見の成功に奔走し



④木戸孝允（左）・吉川経幹 慶応2（1866）年12月30日、ウォルター・タルボット・カー撮影



⑤毛利元徳・木戸孝允ほか 明治3（1870）年4月26日、上野彦馬撮影

知事毛利元徳（前列右より2人目）が、鹿児島訪問の途中で立ち寄った長崎で随員と共に撮影したものです。木戸は後列中央に立っています。木戸の正確な身長は分かりませんが、当時としては比較的高かったと思われる。ちなみに、随員たちが着用しているのは西洋式軍服で、右袖に付けている1本の白帯は、戊辰戦争時の長州藩（山口藩）の制式です。撮影者の上野彦馬は、日本における最初の職業写真師で、坂本龍馬、高杉晋

作ら幕末に活躍した若き志士や、明治政府の高官たちを数多く撮影しました。

山田稔（学芸課主任）

▼次回は10月12日で

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

